

久留米大学を受診した患者さんへ

「3D-CT を用いた肝細胞癌における組織学的門脈侵襲の分布に関する検討」の研究に使用する試料（情報）について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料（情報）を使用します。

- 1) 期間：平成 27 年 1 月～平成 28 年 2 月 29 日
- 2) 受診科：肝胆膵外科
- 3) 対象疾患名：肝細胞癌
- 4) 使用する試料：診療情報、組織、血液等

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。

1) 研究組織：

| | | | | | |
|--------|---------|-------|----|----|----|
| 研究代表者： | 久留米大学 | 外科学講座 | 助教 | 福富 | 章悟 |
| 研究分担者： | 久留米大学 | 外科学講座 | 助教 | 野村 | 頼子 |
| 研究分担者： | 久留米大学病院 | 病理部 | 教授 | 鹿毛 | 政義 |
| 研究分担者： | 久留米大学病院 | 臨床検査部 | 教授 | 中島 | 収 |
| 研究分担者： | 久留米大学 | 病理学講座 | 教授 | 矢野 | 博久 |
| 研究分担者： | 久留米大学 | 外科学講座 | 教授 | 奥田 | 康司 |

2) 研究の意義と目的：肝細胞癌の治療として外科的手術は最も有効な治療法であります、術後再発率はその他の固形癌と比較していまだ高率であり、最適な手術方法については多くの施設で様々な検討がなされています。再発を起こす危険因子として、非常に小さな癌細胞が肝内の門脈という血管に浸潤する門脈侵襲が挙げられますが、そのメカニズムに関してはまだ不明な点が多くあります。本研究の目的は、その門脈侵襲の肝臓内における分布様式を調べることで再発率の低下、生命予後の延長となるべく最適な外科的手術の方法を検討することです。

3) 研究の方法：上記期間に手術を受けられた患者さんにおいて、①前治療歴のない初回単発肝細胞癌、②腫瘍径 50mm 以下、③術後の病理組織学的検査にて組織学的に門脈侵襲を認めた患者さんを対象とし、その切除標本全体を顕微鏡にて評価し、組織学的門脈侵襲の位置、個数、腫瘍からの距離などを検討します。研究期間は平成 28 年 2 月倫理委員会承認後から平成 33 年 1 月末日までになります。

4) 上記の試料（情報）の使用を選定した理由：組織学的な門脈侵襲の分布様式が術前に予測できるようになれば、手術で切除しなければならない範囲が分かるようになり、再発率を下げる事が可能になると思われます。

5) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：当院にて保存している切除検体及び臨床情報を使用し、通常と同様の方法で病理学的検討を行います。患者さん個人情報が公表されることはありません。

6) 研究成果の発表の方法：国内・海外での肝胆膵領域における学会発表および論文発表を予定しています。

7) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません。

8) 事務局、問い合わせ、連絡先：

代表者氏名；外科学講座肝胆膵部門 助教 福富 章悟

住所；〒830-0011 福岡県久留米市旭町 67 久留米大学病院

基礎 2 号館 肝胆膵外科オフィス

TEL 0942-31-7567

FAX 0942-35-8967